

car

MAGAZINE

371

MAY
2009

There is no life without cars

GENEVA 2009:不況をブツ飛ばせ! ジュネーブでアストン乱れ咲き

第371号カー・マガジン5月号 第31巻第6号
平成21年5月1日発行 毎月1回1日発行
昭和56年4月2日第三種郵便物認可



TOP ISSUE: BRAND NEW ABRTH JAPAN PREMIERE!

俺たちのアバルト

270万円で購入できるホンモノのアバルトがついに日本上陸!!

2nd issue: Elvio Deganello Presents — FIAT 131 ABARTH RALLY

“ストラトス・キラール”と呼ばれたラリーマシーン



C-1 GRAND PRIX

シトロエンC5を囲む、エンスー的Dセグメント選手権

ABARTH GRANDE PUNTO / MINI JOHN COOPER WORKS / ABARTH 500 / FIAT 131 ABARTH RALLY
AUTOBIANCHI A112 ABARTH / CITROËN C5 / ALFA ROMEO 159 / VOLKSWAGEN PASSAT CC
NISSAN SKYLINE / HONDA INSIGHT / VOLVO V50 / DODGE JC / LEXUS RX / LANCIA MUSA 1.4 16V
DAIMLER SOVEREIGN 4.2 Sr.1 / TOYOTA SPORTS 800 / MORRIS 1100BLMC MINI CLUBMAN

ホビダス
趣味の総合サイト
www.hobidas.com



SPECIAL SHOPS 006 アバルト・スペシャルショップ・ガイド

BIALBERO ● ビアルベロ

text:Yoshio FUJIWARA (藤原彦雄) photo:Keisuke MAEDA (前田恵介)



4基のリフトを備える広くて清潔なワークショップ。鳥羽氏を含めた3名のメカニックが、フル回転でメンテナンスにあたっている。この日は156とラリー037が並ぶ非日常的な光景が。ちなみにラリー037は同社が得意とする車種のひとつでもある。



「こんなモノがあったら良いのでは？」という鳥羽氏のひらめきを元に、自身のデルタに装着して開発中というデルタ用前置インタークーラー。ビアルベロでは、こうした“チューニング派”ユーザーの期待に応え、独自のパーツ開発も行っている。



広大なショップの脇には、このような接客スペースが用意されている。様々なお宝も並べられ、居心地も良い。「オヤジのたまり場ですよ」とは鳥羽氏の弁。併せて同社では、お客さんを対象としたツーリングなどの交流も積極的に図っているという。

クラシックも最新車も、オリジナルもチューニングも!

静岡という場所は、古くから熱心な趣味人が住む土地でもある。ところが、東西の中心という恵まれた場所に位置しながら、不思議とエンタープライズ車専門とするショップの数は少ない。

そういう意味において、ここに紹介するビアルベロは特異な存在といえるだろう。東名・静岡ICからクルマで10分ほど、静岡市中心部から数分というアクセスの良い立地を誇るファクトリーは、4基のメンテナンスリフトを備えた、150坪という広大なもの。その清潔で整然としたファクトリーは、取材に伺った日もまさにフル稼働という状態であった。

代表の鳥羽昭伸氏は、初めて買ったX1/9からイタリア車の世界にどっぷりとハマり、イタリア車系ディーラー勤務を経て1994年に独立したという経歴の持ち主。ランチア・アピリア、フラヴィアといったヒストリックモデルのメンテナンスから、サーキットユースも見越したチューニングに至るまで、あらゆるニーズに応える腕前から、地元はもとより、関西、関東にも数多くのお客さんを抱えている。またご自身でも数多くのイタリア車を所有してきたほか、3年連続でパンダ・カップのチャンピオンを獲得した、生粋のエンタージャストでもある。

そんな氏の率いるビアルベロの特徴は、オリジ

ナル主義にもモディファイ派にも対応できる、懐の深さにある。例えば同店が得意とするランチア・デルタなどは、初期のHF4WDから、最終のエヴォルツィオーネIIに至るまで、あらゆるモデルに対応が可能。オリジナルを尊重するオーナーのために、安定したパーツの供給ルートを確認する傍らで、さらなる進化を求めるオーナーのためには、独自のパーツ開発に励むといった努力も怠らない。そうした真摯な対応に惹かれ、今でも50台以上のデルタが、この店を主治医に指定しているのだそうだ。

その一方で、exワークスのラリー037のメンテナンスや、F430のチューニング(2基のスーパーチャージャーを装着し、707HP!を発揮するそうだ)といった、かなりコアなプロジェクトも引き受けている。まさに「直せないイタリア車はない」といった雰囲気である。

「いや、別にクルマはどれも同じですから」

と鳥羽氏は謙遜する。しかし、そのマジメで熱心な仕事ぶりからお察しのとおり、鳥羽氏のハートはかなり熱い。その想いは、取材中に氏が口にした「最低でも自分が売ったクルマたちは、お客様がお客様になる限りいつまでも面倒をみたいですよ」という言葉に、最も表れているような気がした。

SHOP INFORMATION



ビアルベロ

1994年にオープン以来、アルファ・ロメオ、ランチア、フィアットなどのイタリア車のメンテナンス、チューニングを手がけるビアルベロ。ヒストリックカーから最新モデルまで、あらゆるクルマを手がける心強いショップでもある。また同社は1989年に設立されたアルファ・ロメオ・フィアット・ランチアのチューニングメーカー、NOVITEC社の日本代理店も務める。詳しくはHPにて。

TEL:054-205-0800 FAX:054-205-0805

URL: <http://www.novitec.co.jp/sports/bialbero/B-top.html>

住所:静岡県静岡市葵区平和3-4-10

営業時間:9:00~18:00

定休日:毎週木曜日 第1・第3日曜日および祭日